

総務常任委員会資料
2026年(令和8年)6月19日
政策局広報プロモーション室天文科学館

天文科学館のリニューアルについて

天文科学館は、令和8年7月30日（木）にリニューアル・オープンすることになりましたので、下記の通り報告いたします。

記

1 リニューアル概要

天文科学館では、約10か月間の休館期間を経て、施設設備や展示内容を更新し、より快適で魅力あるミュージアムとしてリニューアル・オープンします。

- （1）空調設備や照明設備の更新により、快適な観覧環境の向上と環境負荷の軽減を両立しました。エレベーターの更新により移動時間が短縮され、展望室や展示室へのアクセス性も向上しました。屋上防水工事に伴い、日時計広場の整備や日時計の配置更新を行うことで、日時計ひろば全体の景観を一新しました。
- （2）プラネタリウムでは、国内現役最古の投影機を引き続き活用しながら、最新式の全天周映像用プロジェクターの導入や音響設備を更新し、伝統の生解説を活かしつつ、迫力ある映像と音響を活かした多彩な投影が可能となりました。
- （3）天体望遠鏡制御機器の修繕により、天体観測機能を強化しました。
- （4）「時」と「宇宙」をテーマとする展示についてもリフレッシュさせ、日本標準時のまち明石を発信するミュージアムとして、展示機能の充実を図りました。
- （5）デジタル推進課と連携し、入館受付やミュージアムショップにおけるキャッシュレス決済にも対応します。

2 リニューアル事業

（1）プラネタリウム

国内現役最古のプラネタリウムは、状態もよく引き続き稼働を続けます。リニューアルに向け恒星原板の修繕により、明るい星の輝きが回復する一方で、音響設備とドーム映像の更新を行い、迫力あるサウンドと、宇宙旅行やオーロラ映像など、美しい全天周映像の投影が可能となりました。学芸員による専門的かつ親しみやすい生解説を継続しながら、最古と最新の技術を組み合わせた、伝統的かつ革新的なプラネタリウム投影を行います。

<一般投影>

「～リニューアル・オープン記念投影～ 明石発・宇宙の旅2026」（7月30日～8月30日）

今夜の星空の紹介と、明石から宇宙の果てまで最新映像で巡る宇宙旅行を体験します。

<キッズ・プラネタリウム>

「キラリ☆ながればしのひみつ」（7月30日～8月30日）

流れ星の正体と見つけ方を、迫力ある映像も交え、こどもにもわかりやすく紹介します。

(2) 「時」の展示の充実等

天文科学館は、日本標準時子午線上にあり、「時」と「宇宙」をテーマとした際立った特徴を有するミュージアムです。

リニューアル・オープンあたり、セイコーグループ株式会社より昨年開催された大阪・関西万博のクラゲ館で展示された「セイコークラゲ日時計」の寄贈を受けました。直径2メートルの大型日時計であり、日時計広場の新たなシンボル展示となることが期待されます。



大阪・関西万博のクラゲ館で展示された「セイコークラゲ日時計」

また、情報通信研究機構で実際に使用されていた日本標準時関連機器の展示、時計の歴史パネル更新など、「時」に関する展示の充実を図り、「時のまち明石」の魅力発信に努めます。宇宙分野についても、最新情報を反映した展示更新を行います。

(3) リニューアル特別展

「はじめ展（てん）～時と宇宙と人をつなぐモノがたり～」(7月30日～)

世界のプラネタリウム、セイコーの時計資料、宇宙切手、小惑星探査など、「時」や「宇宙」に関する“はじめて”となる資料を展示します。(テーマごとに会期設定)

(4) 天体観測室の活用

天体望遠鏡を使った天体観望会によって、実際の星空観察を通じて宇宙に親しむ機会を提供するとともに、オンラインによる配信の充実も図ります。

(5) そのほかイベント

ナイトミュージアム、星と音楽のプラネタリウム、シゴセンジャーなど、これまでと同様に魅力ある事業を実施します。

3 登録博物館への移行

天文科学館は、昭和35年より博物館法における博物館相当施設でしたが、このたび工事期間を活用し、登録博物館への移行申請を行いました。その結果、令和8年5月13日付で登録博物館へ移行することができました。登録博物館となることで、正式な博物館として、資料保存や調査研究、教育普及活動などにおいて、さらなる機能充実と国等との連携強化が期待されます。